

研究の概要

1 研究主題

『自ら考え表現し，ともに学び合う授業の創造』【二年次】

～言葉の力をつけ，考えを伝え合う力を育てる国語科の授業づくりをめざして～

2 研究主題設定の理由

国語科の授業づくりにおいて，広島市内の小学校の実態として，「文学的文章の指導に偏る」「登場人物の心情ばかりを問う授業に偏る」「活動と指導の区別が不十分」など，学習指導要領にある指導内容が指導者に十分理解されていない。単元ごとの評価が適切になされていない等々の課題が明らかにされた。

本校では昨年度，国語科を通して「指導内容・方法を明確にした授業づくり」「子どもたちの考えを深める授業づくり」「言語技術の効果的な活用のための指導方法や教材の開発」を研究の視点として，『自ら考え表現し，ともに学び合う授業の創造』をめざしてきた。取組の結果，子どもたちは国語科の基礎的な知識や技能・言語技術を少しずつ習得し，指導者は学習指導要領にある指導内容を意識し明確にしながら授業に取り組むようになってきた。

一方，理由や根拠を述べながら筋道を立てて話す力や友だちの考えを聞き自分の考えを深める力を学年ごとに系統立てて指導していくこと，指導と評価の一体化を図るために評価項目を子どもの姿で設定し評価することなどが課題として残った。

そこで本年度も引き続き，『ひろしま型カリキュラム実践研究校』の取組を生かし，国語科の基礎的・基本的な知識や技能・言語技術の習得と思考力・判断力・表現力の向上に向けての実践研究を行い，『自ら考え表現し，ともに学び合う授業の創造』をめざして上記の主題を設定した。

3 研究主題について

(1) 「自ら考え表現し」とは

「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」など，その子ども自身のねがいがあり，「誰に対して」という相手意識や「何のために」という目的意識が子どもの中に生まれ，それらを実現するために自分でその方法を考えたり，それを表現したりする子どもたちの主体的な活動する姿であると考え。

(2) 「ともに学び合う」とは

ともに学習する仲間から出される様々な見方・考え方をお互いに受け入れ，交流したり共有したりすることにより，自らをふり返り自分の中の知識や見方・考え方が豊かになっていく姿であると考え。